キャリア教育と進路指導

キャリア教育の計画と取組状況について

(1) 「キャリア教育」とは （中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年１月）

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

(2) 学習指導要領（平成29年３月告示）における取扱い

小学校	◇総　　則（第４　児童の発達の支援１） (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。 ◇特別活動（第２　各活動・学校行事の目標及び内容） ２　内容 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成 イ　社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ　主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 ３　内容の取扱い〔第５学年及び第６学年〕 (2) ２の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。
中学校	◇総　　則（第４　生徒の発達の支援１） (1) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。 ◇技術・家庭（第３　指導計画の作成と内容の取扱い２） (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動を充実すること。また、生徒のキャリア発達を踏まえて学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりについても取り扱うこと。 ◇特別活動（第２　各活動・学校行事の目標及び内容） ２　内容 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア　社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ　社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ　主体的な進路の選択と将来設計 ３　内容の取扱い (2) ２の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

※中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年１月より
※学習指導要領解説（平成29年度３月告示）より

キャリア教育の計画と取組状況について

「自校のキャリア教育の計画と取組状況について」

＜キャリア教育を進めるための３つのステップ＞

STEP１　キャリア教育を通して身につけさせたい力を設定する

STEP２　各教科等の中の「キャリア教育の宝」を洗い出す

STEP３　学級活動・ホームルームを「要」にする

※オンデマンド型研修　ＮＩＴＳ動画「キャリア教育の実践」より

キャリア教育の計画と取組状況について

＜キャリア教育を進めるための３つのステップ＞

STEP１　キャリア教育を通して身につけさせたい力を設定する

「基礎的・汎用的能力」を“たたき台”にしながら、目の前のこの子たちに「卒業時点でできるようになってほしいこと」を具体的に設定することが肝要

※オンデマンド型研修　ＮＩＴＳ動画「キャリア教育の実践」より

キャリア教育の計画と取組状況について

STEP２　各教科等の中の「キャリア教育の宝」を洗い出す

STEP３　学級活動・ホームルームを「要」にする

キャリア教育推進の2本柱

- 教科等（道徳、総合的な学習の時間、特別活動等を含む）を通じた日々の学び
  - 自らの将来との接点、未来に生きる力の実感
- 地域・企業等との連携による体験を通した学び
  - 現在の学習と「大人の世界（＝未来の私の世界）」との接点を発見する場でもある
  - 新たな学習課題の発見、自らの「欠け（＝発展・成長の可能性）」の発見にもつながる
- 学校における教科等の意義の認識の深まり

ここをねらおう

※オンデマンド型研修　ＮＩＴＳ動画「キャリア教育の実践」より

キャリア教育の計画と取組状況について

実践例の紹介①「社会科の授業での取組」

本単元では、情報や情報通信技術を生かして発展する産業について調べることを通して、産業と自分たちの生活との関わりについて考える。情報や情報通信技術を活用して、情報化が進む社会で働く自分自身の今後の在り方まで考えることができるようにすることで、「キャリアプランニング能力」を培うことにつなげることもできる。

展開（8/8 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項（○）　キャリア教育の視点から見た重要なこと（◎）　評価（☆）
導入	1　販売業など，様々な産業において情報や情報通信技術を活用して発展していることを振り返る。	○ 情報や情報通信技術の活用が産業を変え，自分たちの生活の変化にもつながることに気付かせる。
	情報や情報通信技術を活用して産業が発展することと，自分たちの生活との関わりについて考えをまとめよう。	
展開	2　情報や情報通信技術を活用して産業が発展することのよさと課題について整理する。 ・産業の発展により自分たちの生活の利便性が向上したこと。 ・国民は適切な情報を見極める必要があること。	◎ 販売業や運輸業の事例で調べたことをもとに，情報を活用して産業が発展することのよさと課題について整理させる。
	3　情報や情報通信技術を活用して産業が発展を続けることで自分たちの生活はどのように変化していくか，産業や国民の立場を踏まえて，話し合う。	◎ 情報や情報通信技術を活用して産業が発展することのよさと課題を踏まえ，これからどのように産業は発展し，国民生活は変化していくのかを多角的に考えようとしている。
まとめ	4　情報化社会のよさや課題を踏まえ，情報化による産業の発展と自分たちの現在や将来の生活との関わりについて，自分の考えをまとめる。	☆ 情報化による産業の発展と自分たちの現在や将来の生活との関わりについて，自分の考えをまとめることができる。

※「小学校キャリア教育の手引−小学校学習指導要領（平成29年告示）準拠−」（令和４年３月）

キャリア教育の計画と取組状況について

実践例の紹介②「キャリア教育指導計画作成の取組」

キャリア教育全体計画の作成を若手教師研修に位置付けて取り組んだ事例である。

〈事例の特徴〉

・ 研修には各学年主任が参加し、若手教師は助言を受けながら研修を進めた。
・ 作成した計画に基づいて取組を進めるときは、若手教師が進捗管理を行った。

〈全体計画作成の流れ〉

① 「授業における生徒の課題」「教科の目標を達成するために生徒に身に付けさせたいこと」について全教師にアンケートをとってまとめる。
② キャリア教育を進めるために、生徒の現状を把握し達成すべき課題を設定する。
③キャリア教育推進のための柱を設定し、全体目標設定の準備をする。
④キャリア教育推進の柱それぞれについて、各教科等での具体的な展開を考える。
⑤これまでの内容を踏まえて、キャリア教育全体計画の核となる体験活動を設定する。

〈更なる充実のポイント〉

・評価の視点を明確にし、「キャリア・パスポート」を計画に位置付けるなどして、学校全体で取組の評価の視点や方法を共有する。

※「中学校・高等学校キャリア教育の手引−小学校学習指導要領（平成29年告示）準拠−」（令和４年３月）

キャリア教育の計画と取組状況について

実践例の紹介③「総合的な探究の時間の取組」

様々な学習を通じて，長い時間かけて明らかにしたい，自分の探究課題（自分事となるマイテーマ）を設定する授業である。

ここで設定した自分の探究課題を次年度更に深め，社会に発信していくことになる。以下が本単元のねらいである。

- 論文を書く技能，進路についての知識，プロジェクトの進め方を身に付け理解している。
- 論文テーマや仮説，自分の将来や試行するプロジェクトの内容を考えることができる。
- 学んだことをつなぎ，探究サイクルを回して自分の探究課題を設定しようとする。

生徒たちは，様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断して課題を設定し，実際に課題解決に向けて計画を立てて行動する。こうした点で，本取り組みは「キャリアプランニング能力」の育成を目指している。

なお第２学年の学習をふまえ，第３学年では，それぞれの生徒が自己の在り方生き方を考えて課題を設定し，卒業研究として取り組む。

これまでの主な学習活動

・複雑な状況の中から，自己の在り方生き方を考えながら課題を設定する。
・学ぶことや働くことの意義や価値の概念が形成されるような社会体験活動をしている。
・自分や他者のよさを生かしながら，主体性・協働性を発揮して問題の解決に取り組む。

教科等との関連

国語科（3000 文字チャレンジ）
公民科（プロジェクト），特別活動など

他教科・科目等の資質・能力を効果的に活用・発揮しながら，問題を解決する。

主な学習活動（総時数35時間）

【よりよい地域や社会の実現に向けて自分ができることを考え，まとめたり発表したりする。（19時間）】
○ 地域や社会の複雑な問題状況の中から，今までの総合的な探究の時間を振り返り，自己の進路や興味・関心と結び付けながら，自らが取り組みたい課題を焦点化し，研究計画を立てる。
○ 相手に分かりやすく伝わるよう工夫してまとめ，成果や今後の指針を発表する。
【ちょこっとプロジェクト（以下，チョコプロ）に取り組もう。（9時間）】（本時1/9）
○ 自己のキャリア形成との整合性が図られているか確認しながら，チョコプロの計画を立てる。
○ チョコプロを実践し，その成果や課題を踏まえて計画を修正し，２回目のチョコプロを実践する。
【まとめと次年度の課題設定（7時間）】
○ 今までの総合的な探究の時間の学びを振り返り，自分が興味をもつことや取り組みたいことを確認する。
○ 自己のキャリア形成に向けて新たな目標を設定し，それを踏まえて次年度に取り組む自分の課題を設定する。

★「チョコプロ（ちょこっとプロジェクトの略称）」とは身近な地域や学校生活から，自分が取り組みたくて誰かのためになる課題を見出し，その解決をプロジェクトとして1週間実行する取組である。プロジェクトの計画から振り返りまでのサイクルを2回まわすことで，プロジェクトの進め方を学ぶこともできる。この取組は岩手県立大槌高等学校などで実践されている。

※「中学校・高等学校キャリア教育の手引−小学校学習指導要領（平成29年告示）準拠−」（令和４年３月）

高等学校におけるキャリア教育

子ども・若者に自らの将来を考えさせるためには、学校内における教育活動だけではなく、具体的に多様な年齢、立場の人や社会や職業にかかわる様々な現場を通して、自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を経験させることが効果的です。

職場体験充実のための方策

職場体験の充実を図るためには、職場体験のねらいや目的を明確にし、生き方の指導を含めた事前・事後指導の充実、５日間の職場体験の実施等における質的向上を図る職場体験実施計画の立案が重要となります。

〔各学校の職場体験のねらい（例）〕

生　徒

- ●人と出会い・ふれあいを大切にしよう
- ●社会（仕事・職業等）のよろこびや厳しさを実感しよう
- ●新しい自分を発見しよう
- ●将来について考えよう
- ●自ら考え学び、行動しよう
- ●地域について考えよう　等

体験先・保護者

- ●子どもたちを見つめ直すきっかけになります
- ●子どもたちの職業への関心を高めることができます
- ●子どもたちとのコミュニケーションが図りやすくなります
- ●子どもたちが地域社会を知り、関心を高めるきっかけになります
- ●地域でのコミュニケーションが一層高まります

事前指導から事後指導への展開

①職場体験実施計画の基本

②職場体験実施に当たっての組織

③職場体験先の確保

④事前指導・事後指導の方策

⑤事前指導・事後指導の効果

高等学校におけるキャリア教育

〔職場体験の運営にかかわるポイント〕

実施学年	実施時期	実施期間
●指導のねらいを明確にし、子どもの発達の段階、年間指導計画とのバランス等を考慮に入れて調整する。	●ねらいに適した時期、年間指導計画とのバランス、特別活動・総合的な学習の時間等との関連、体験先・地域への配慮等を考慮に入れて調整する。	●体験の質を高め、体験先・地域へ配慮し、調整する。

〔事前指導と事後指導のポイント（実施学年を２年次とした場合）〕

■事前指導

１年次からの進路指導
・進路学習全体にかかわる内容の学習
ねらいや課題の確認
・職場体験先のねらいの理解、自分の課題の発見
課題解決に向けての調査内容の検討
・職場体験での調査内容の検討
事後の学習の理解
・評価の方法、まとめ方、発表会等

■事前準備（直前の準備）

１年次からの進路指導
・体験の内容に関すること
安全・緊急対応の確認
・安全等に関すること
社会性やルールに関する指導
・礼儀やマナーに関すること

事前指導

■職場体験に関する直後の指導

職場体験記録のまとめ
・職場体験記録をまとめる
礼状の作成（学校、生徒、保護者）
・生徒から体験先への礼状作成
報告書の作成
・事後報告をまとめる

■職場体験発表会に向けて

発表資料の作成
・新聞、ポスターづくり
・コンピュータを活用したプレゼンテーション
職場体験発表会
・職場体験の内容の発表
・生徒間での体験の共有化

■事後指導

報告書を持参しての事後訪問
・報告書、礼状（学校、生徒、保護者）等を持参しての事後訪問
・職場体験の再評価

■職場体験を終えて

職場体験の総括
・職場体験全体を終えてのまとめ
（事前、体験、事後を終えて）
・次年度に向けての課題設定

事後指導

高等学校におけるキャリア教育

インターンシップ充実のための方策（普通科に焦点を当てて）

インターンシップの充実を図るためには、高等学校普通科において就業体験活動を実施するために障壁となっている要因の克服を目指し、次の①～⑨のようなポイントを踏まえることが大切です。

(1)　目的の明確化

①　生徒が自ら職業や自己の進路に係る課題を設定するなど目的を明確化する

(2)　校内体制の構築

②　校長のリーダーシップの下で組織的に対応する

③　ノウハウを蓄積する

(3)　学校外部の教育資源の活用の推進

④　学校と事業所をコーディネートする学校の外部組織を積極的に活用する

(4)　学校の教育活動における位置付けの明確化

⑤　入学から卒業までの指導計画の中でインターンシップを位置付ける

(5)　効果的なインターンシップの実施

⑥　生徒のニーズに合わせる

⑦　十分な事前指導・事後指導を実施し、レポートなどにまとめ発表するなど、さらに探究を連続する

⑧　大学進学と結び付ける

高等学校におけるキャリア教育

就業体験活動（インターンシップ）について

学習指導要領では、「学校においては、キャリア教育及び職業教育を推進するために、生徒の特性や進路、学校や地域の実態等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験活動の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。」ことが示されています。

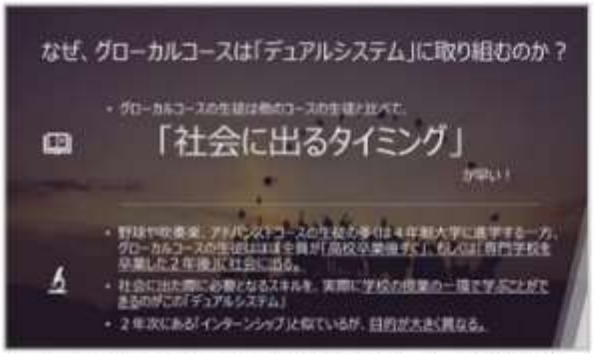
デュアルシステムの指導事例

北海道鵡川高等学校

デュアルシステムとは、若者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業等での実習と学校での講義等の教育を組み合わせて実施することにより、若者を一人前の職業人に育てる仕組みのことをいいます。

１、２年生のグローカルコースの生徒が、学校設定科目「チャレンジスタディ」（４単位）の科目の中で、４～６校時の時間帯に月３回程度、３か月間で計８回の就業体験活動を実施しています。

訪問先の事業所について調べたり、実習の目標を設定するなどの事前学習を実施した後、町内の事業所（役場、小学校、中学校、公共施設、農業協同組合、農園、地元企業など）で実習を行いました。長期にわたる就業体験活動を実施することで、回数を重ねるごとに活動を充実させており、事業所から帰ってくるたびに精悍な顔つきになる様子が見られました。



【デュアルシステム説明会資料（一部抜粋）】

【デュアルシステムで身に付けさせたい力】

1 専門的な知識・技能
2 コミュニケーション力
3 主体的に取り組む力（意欲）
4 他人と協調しチームで活動する力
5 課題を発見し解決する力
6 地域理解・地域愛

アカデミック・インターンシップの指導事例

北海道大樹高等学校

アカデミック・インターンシップとは、大学等の専門機関において実施する就業体験活動のことをいいます。大学の研究室等と連携して、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験し、視野を広げることにより、生徒が「大学等の向こうにある社会」を意識し、自己の将来について考えるきっかけをつくることができます。

北海道医療大学において、２年生の希望者を対象に、医療分野に関係した研究活動の体験を実施しました。臨床検査学科を希望した生徒は、インフルエンザ検査、尿検査、顕微鏡による細菌検査、超音波検査など、臨床検査技師が担う生理検査や検体検査を体験し、看護学科を希望した生徒は、正しい手洗いの方法、ストレッチャー移動、新生児人形を用いて心音を聞くなどの体験活動を行いました。参加した生徒からは、「町の病院では高齢者が多い印象だったが、医療の分野は広く、様々な年代の患者がいることに気付いた。」、「大きな病院では様々な医療が行われていることを知り、視野が広がった。」などの感想があり、医療分野に対する見方・考え方が深まりました。

また、 室蘭工業大学と大樹町の「包括連携協定」を活用することで、室蘭工業大学から講師を招き、１、２年生が、スズを用いた鋳造を行うなどの体験的な学習活動を行いました。年に５回ほど実施する予定で、工学の面白さと社会との関わりについて学んでいます。

【インターンシップ報告会の様子】

【ペーパーウェイトづくりの様子】

高等学校におけるキャリア教育

インターンシップの推進

将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技術・技能の習得、望ましい勤労観や職業観の育成は全ての生徒に必要なものです。また、技術革新の進展や経済・産業の変化や構造転換などが急速に進む中で、学校教育を終えた後も新たな知識や技術・技能を身に付け、生涯にわたって自己の職業生活をたくましく切り拓いていこうとする意欲や態度、目的意識などを培うことがこれまで以上に大切になっています。

こうしたことから、高等学校では、生徒が自らの学習内容や将来の進路等に関連した就業体験を行う「インターンシップ」が進められています。また、中学校においても地域の企業などで体験的に学ぶ機会をもつ実践が進められています。

参考資料

【キャリア教育の推進】

○令和２年度小（中）学校
教育課程改善の手引

【キャリア教育の充実】

参考資料

【キャリア教育の推進】

【内容】
1　キャリア教育
2「キャリア・パスポート」
3「キャリア・パスポート」
　の効果的な活用

【令和４年度版キャリア教育の推進】